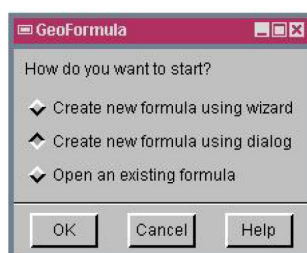


ジオフォーミュラを使った新規オブジェクトの作成

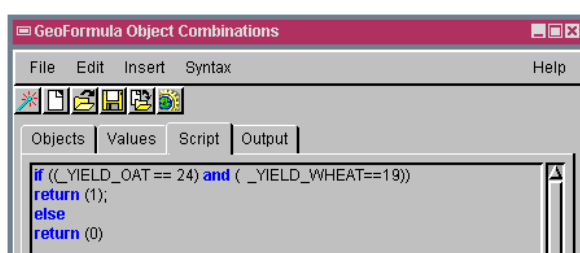
ご存知でしたか?... 「串刺し演算機能 (ジオフォーミュラ)」処理を使うと、地理空間入力オブジェクトの属性からセル値を計算して、新規ラスタオブジェクトを作成できます。

ジオフォーミュラを使って新規オブジェクトを作成することで...

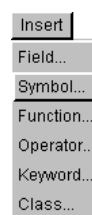
- 複数の入力オブジェクトから新規ラスタオブジェクトを生成できます。
- SML スクリプトを使って新たなセル値を計算できます。
- 出力ラスタのラスタタイプ、投影法、範囲、セルサイズ、ラスタサイズを設定できます。



最初にこのトグルボタンをオンにすると、入力オブジェクトを選択するためのプロンプトが出ます。



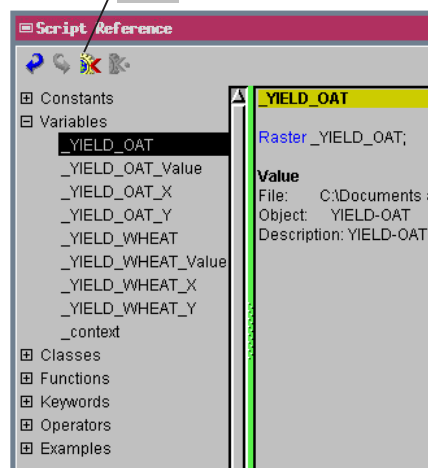
入力オブジェクトの属性を使って出力ラスタのセル値を計算するスクリプトを入力します。上の図では、2つの入力ラスタオブジェクトが使われています。



[挿入 (Insert)] メニューから [シンボル ...(Symbol...)] を選び、<スクリプト参照 (Script Reference)> ウィンドウを使って入力オブジェクトの名前をスクリプトに挿入します。



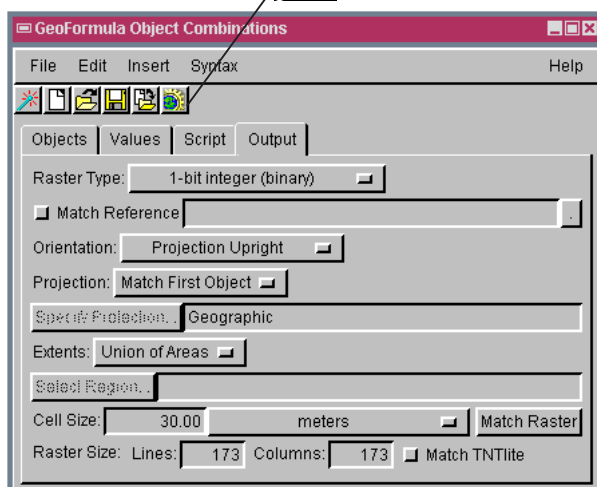
[挿入 (Insert)] アイコン



上の図では、[変数 (Variables)] の項目が開き、入力オブジェクトや他の変数のリストを示しています。ラスタの名前を選択し、[挿入] アイコンをクリックして選んだ名前をスクリプトに挿入します。



[実行 ...(Run...)] アイコン



[出力 (Output)] タブパネルでは、出力するラスタタイプ、投影法、範囲、セルサイズ、ラスタサイズについてのパラメータを設定します。スクリプトにより生成される値の全範囲をカバーするように適切な [ラスタタイプ (Raster Type)] を選択するようにします。

ジオフォーミュラを使って新規オブジェクトを作成する方法

- メニューバーから [スクリプト (Script)] > [串刺し演算機能 (ジオフォーミュラ)... (GeoFormula...)] を選択します。
- <串刺し演算機能 (ジオフォーミュラ)> ウィンドウが開いたら、[ダイアログによる新規フォーミュラの作成 (Create new formula using dialog)] トグルをオンにして、[OK] をクリックします。
- プロンプトが出たら、処理用の入力オブジェクトを選択します。
- [スクリプト (Script)] パネルをクリックして、SML スクリプトを入力します。
- [出力] パネルをクリックして、出力ラスタのデータタイプを選択します。
- [実行 ...] ボタンをクリックして、出力ラスタを保存します。

さらに知りたいことがあれば...



以下の入門書をご覧ください
ジオフォーミュラを使う
 (Using Geospatial Formulas)

